

8 今後の検討課題

本業務において、オリンピック・パラリンピックの開催期間を含む7月1日から9月16日までの主要競技会場周辺等における暑熱環境を測定した

2019年より3地区加えて17地区での測定を行ったが、本年度は17地区すべてで予定通り7月1日から測定を開始した。次年度はオリンピック・パラリンピックの開催年であり、各地区の測定結果が一層重要となることから全地区で同時に測定を開始できるよう、調整を進め始める必要がある。また今年度は、2018年度、2019年度にくらべ、梅雨明けが8月に遅れて、7月は冷夏気味であった。一方一転して梅雨明け後は晴天猛暑となり、オリンピック期間は前半が冷涼、後半は猛暑となった。さらにこの猛暑は9月にかけて続き、2020年に限ってはオリンピック期間よりもパラリンピック期間が厳しい暑熱環境となった地区が多かった。このように、過去3年とは異なる猛暑期間などに対して有効なデータが得られた。2018年、2019年と2020年は発現時期が異なるものの盛夏期には比較的高温が継続することが示されたことから、暑熱環境の評価として有効なデータが得られた解析結果などを関係者と共有していく必要がある。

さらに、2021年東京オリンピック・パラリンピック開催時には、リアルタイムでのWBGT実況値や、予測値の提供が求められることから、技術開発を進めてきたが、リアルタイム運用を行う必要があることから、早くからシステムとしての習熟度を上げておく必要がある。

以上から、次年度以降の業務に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- ・引き続き主要競技会場周辺等において測定を行い、データの蓄積及び関係者との共有を行うこと
- ・測定開始を全地区で7月当初とし、暑熱環境の厳しい日のデータを測定する機会を増やすこと
- ・測定データのリアルタイムでの公表に向けて所要の準備を進めること。
- ・会場周辺におけるWBGTの予測の手法を確立し、リアルタイムでの公表に向け準備を進めること